

地域医療連携室だより vol.3

発行：蒲郡市民病院 地域医療連携室

TEL 0533-66-2307

地域医療連携室の仕事

～退院支援看護師業務～

平成 23 年 4 月より、3 名の退院支援看護師(ディスチャージナース)が、担当部署の病棟看護師と協働しながら活動しています。障害の状態や介護力不足など、在宅療養に支障をきたすような家族状況にある患者さんに、私たちは看護師の視点で、どこにおいても適正な医療が受けられ、かつ QOL の高い生活を送ることができるよう、家族を含めた療養生活支援に取り組んでいます。

院内はもとより地域の医療・保健・福祉機関と連携を深め、特に地域のケアマネージャーさんとは患者さんの入院前の様子や、退院後の療養生活について情報交換の場を持ちながら、安全に安心して、自分らしい生活を送ることができるよう支援していきたいと考えています。

お電話でのお問い合わせ、病院のお越しの際などお気軽にお声を掛けくださるようお願い申し上げます。

4 階東病棟再開

市民病院では、平成 25 年 4 月 1 日に病棟配置の変更を行いました。この中で平成 20 年 8 月以来閉鎖しておりました 4 階東病棟を主に整形外科病棟として再開した他、5 階東病棟を 15 歳未満の小児患者専門の小児病棟として整備しました。

今回は、休床となっている 60 床を返上するものではありませんが、安全で良質な入院医療を提供することを目指し、一歩ずつ前進してまいります。関係機関の皆様には大変ご心配をおか



けしました。再開に伴い、フロアタイルをカーペットタイプからピータイルに変更し、病棟の雰囲気も明るくなりました。お立ち寄りの際はぜひご覧ください。

地域医療連携室移転

地域医療連携室は、平成 25 年 3 月 1 日に 1 F ホスピタルモールの地域医療連携窓口部に本部を移設しました。なお、移設と同時に紹介患者の診察、検査予約受付時間をこれまでの午後 5 時 15 分から午後 7 時まで延長しています。いつもご紹介いただいている医療機関様の診療時間に合わせることで、予約依頼をスムーズにお受けし、予約日時調整を迅速にできます。



—連携室からのお知らせ—

診察、検査の予約受付時間を午後 5 時 15 分から午後 7 時へと延長しました。予約日時の調整もリアルタイムで対応させていただきますので、ぜひご利用ください。

診察、検査予約受付時間 午前 8 時 30 分～午後 7 時 00 分

裏面もご覧ください

地域医療連携室だより vol.3

発行：蒲郡市民病院 地域医療連携室

TEL 0533-66-2307

蒲郡市民病院 消化器科

平成 25 年 4 月から、消化器内科常勤医が増員され 4 人体制となりました。従来、常勤は安藤朝章医師（消化器科部長）、佐宗俊医師の 2 名体制で、名古屋市立大学、愛知医科大学より派遣していただいた非常勤医師のバックアップで消化器内科を維持して来ました。今回、小田雄一医師（消化器科第 2 部長）が加わり、さらに昨年度まで研修医であった成田圭医師が新たなメンバーとして加わりました。4 人体制になり、昨年度より一層、蒲郡を中心とした東三河における消化器患者さんには貢献できると考えておりますが、近隣の病院と比較すると消化器内科医としては少ないといわざるを得ません。しかし 4 人のバイタリティーで何とか可能な限り、地域の先生方にはご迷惑をおかけしないよう対応していく心構えです。

消化器疾患は、上部消化管（食道、胃、十二指腸）から大腸、また肝臓、胆道・膵疾患など多岐に渡っています。最近ではカプセル内視鏡、ダブルバルーン内視鏡が開発され、新たに小腸疾患の扉が開かれました。当院でも昨年は原発不明の消化管出血の患者さんに対してカプセル内視鏡を数例行いました。また内視鏡的治療も、従来から施行されているポリープ切除術から最近では早期消化器癌に対する内視鏡的粘膜切除術まで行なうようになっており、当院でも早期胃癌に対する内視鏡的治療を積極的に行なっております。また緊急を要する閉塞性黄疸、急性胆管炎、急性胆嚢炎に対する内視鏡的減黄術は、消化器医師だけでなく内視鏡室スタッフの協力もあり、当院では迅速に対応しております。また主に外科の先生が中心であった消化器がんに対する抗がん剤治療も消化器内科も行なうようになってきました。抗がん剤の中の分子標的剤治療は、副作用も多く、専門的知識が要求されるようになってきました。消化器内科医としては、診療のほかに日々学習が必要ですが、当、消化器内科でも食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、胆道癌、膵癌など入院および外来化学療法室で行なえるようにしております。

消化器内科のトピックスの一つに、平成 25 年 2 月より萎縮性胃炎におけるピロリ菌感染症の除菌適応拡大があります。従来、慢性胃炎に対しては症状に応じて内服薬投与をして漫然と治療しがちでしたが、今後、ピロリ菌の感染の場合は、プロトンポンプインヒビター、クラリスロマイシン、アモキシシリンで除菌を行ないます。但し、この治療には上部消化管内視鏡検査での萎縮性胃炎の診断が必要です。以前の経口内視鏡検査と比べて、経鼻内視鏡検査は挿入時に患者さんに苦痛を与えることが少ないといわれています。医師会の先生の御協力もあり、経鼻内視鏡希望の患者さんを多く御紹介していただき、当院での経鼻的内視鏡検査は約 80%を占めております。今後、除菌療法の浸透とともに経鼻内視鏡検査が増加することが予想されますが、当院でも患者さんのニーズに対応していきたいと考えています。

最後に、今後も地域の先生方としっかり連携し、消化器内科 4 人だけでなく、内視鏡室スタッフとともに、東三河地区における消化器疾患の患者さんに貢献したいと考えております。今後とも御指導のほど、よろしく申し上げます。

文責：安藤朝章

裏面もご覧ください